

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和2年2月26日)

	ページ
1 移住定住の促進に向けた取組状況について	【ふるさと人口政策課】・・・1
2 鳥取県人口ビジョン(2020改訂版)について	【ふるさと人口政策課】・・・2
3 関係人口の拡大に向けた取組状況について	【ふるさと人口政策課】・・・4
4 ふるさと鳥取アプリ「とりふる」の運用開始について	【ふるさと人口政策課】・・・5
5 SANKO夢みなとタワー物販施設運営事業者候補者の選定結果について	【観光戦略課】・・・6
6 国際定期便の欠航について	【国際観光誘客課】・・・7
7 多文化共生の取組について	【交流推進課】・・・8
8 台湾ランタンフェスティバル in 台中への参加結果について	【交流推進課】・・・10
9 関西圏における情報発信等について	【関西本部】・・・12
10 「とっとり経済交流セミナーin 関西」の開催について	【関西本部】・・・14

交流人口拡大本部



移住定住の促進に向けた取組状況について

令和2年2月26日
ふるさと人口政策課

鳥取県内の市町・企業が集う移住・就職イベント「I J UターンBIG相談会」を大阪にて開催し、移住希望者・移住潜在層への働きかけを行いました。また、「日本創生のための将来世代応援知事同盟」が主催する第5回「いいね！地方の暮らしフェア」では、今年度は鳥取県が幹事県となり、他の16県とともに首都圏在住の子育て世代に向けて、地方暮らしの魅力を都内で発信しました。

1 I J UターンBIG相談会 大阪会場

- (1) 日 時 令和2年2月1日(土) 午前11時30分から午後4時まで
(2) 場 所 天満橋 OMM ビル2階Aホール(大阪府大阪市中央区大手前)
(3) 概 要

- ① 先輩移住者(岩美町で活動している地域活性化団体「うみねこ舎」)によるとっとり暮らしセミナー「鳥取移住の家探しとリノベーション」
- ② 移住・就職・就農漁業・起業創業・住宅等相談と、企業の人事担当者との面談(移住ブース:16市町、団体:14団体、就職ブース:35企業)

- (4) 来場者 103組、150人 セミナー参加者 68人

[来場者の声]

- ・ワークライフバランスを大事に暮らしたいと思っているが、鳥取はイメージしていた以上に住み心地が良さそうで、移住の検討を本格化させたい。(40代・女性)
- ・豊かな自然の中で海に関わる仕事がしたいと考えている。水産業や住まいなど、移住にあたって知りたいことをそれぞれのブースで詳しく話を聞くことができよかった。今後も継続して相談したい。(30代・男性)



2 第5回「いいね！地方の暮らしフェア」

- (1) 日 時 令和2年2月9日(日) 午前10時45分から午後4時まで
(2) 場 所 東京国際フォーラム ホールE1(東京都千代田区丸の内)
(3) 概 要 首都圏在住の子育て世代に向けて、地方移住推進のために、地方暮らしの魅力を発信した。

- ① ステージイベント(TOKYO FM公開収録イベント、アンパンマンショー、知事による共同宣言)
- ② 移住・就業・子育てに関する相談及び各県の魅力発信ブース、地方の名産品マルシェ等

- (4) 主 催 日本創生のための将来世代応援知事同盟

<構成県>17県

- ・知事出席(11) 宮城県、福井県、山梨県、長野県、三重県、島根県、岡山県、徳島県、高知県、宮崎県、鳥取県(今年度フェア幹事県)
- ・副知事出席(2) 岩手県、広島県
- ・ブース出展(4) 福島県、茨城県、滋賀県、山口県

<目的>・人口減少に歯止めをかけ、地方への人の流れをつくり、東京一極集中型社会を変える。

- ・独自の発想と実行力を持ち、人口減少社会に立ち向かうトップランナーを目指す知事が同盟し、地方創生のため行動する。

- (5) 全体来場者 2,461人(本県ブースでのアンケート回答者数119名)

[来場者の声]

- ・(星取県VRを見て)大山の星空がきれい。昼も夜も自然が楽しめそう。(30代・女性)
- ・鳥取県に行ったことがなかったが、鳥取県を知る機会にもなり、子どもも楽しめてよかった。(30代・女性)
- ・水木しげるロードや鳥取砂丘には行ったことがあったため、鳥取県ブースに寄ったが、ブースでの相談により移住先として意識した。(40代・男性)



鳥取県人口ビジョン（2020改訂版）について

令和2年2月26日
ふるさと人口政策課

鳥取県人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる課題について県民と認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向性を提示する「鳥取県人口ビジョン」について、国における長期ビジョン改訂、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定（2019（令和元）年12月20日）を踏まえ、社会移動や合計特殊出生率の目標の見直し、各種統計を最新の数値に時点修正し、人口シミュレーションの再計算を行った改訂版として、「2020改訂ビジョン」（案）を作成しました。

今後、第2期鳥取県版総合戦略「鳥取県令和新时代創生戦略」とあわせて、3月末の改訂を予定しています。

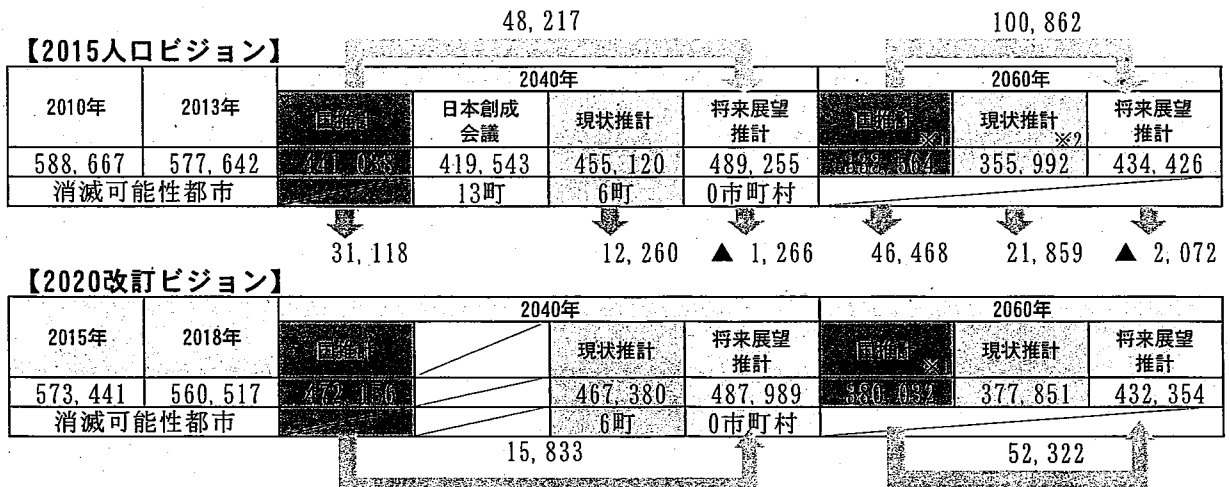
1 「2020改訂ビジョン」のポイント

国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「東京圏と地方の転出入均衡」の目標達成年度の先送りや、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」における合計特殊出生率の目標達成年度の設定、本県において取り組む社会減・自然減対策の効果発現時期を踏まえ、**転出超過解消と合計特殊出生率の現目標達成年度を5年後に見直すとともに、若者の転出超過に歯止めをかけるため、若年層（20～39歳）の転入者増を新たに目標設定する。**

<p><現・人口ビジョン>（2015年（平成27）年10月13日策定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆社会減目標：転出超過を今後5年間で（2019年までに）半減、その後（2024年までに）均衡。 ◆自然減目標：2030年までに合計特殊出生率を希望出生率1.95まで引き上げる。 国の想定より早く（2036年頃）人口置換水準2.07まで引き上げる。 <p>⇒消滅可能性都市ゼロとなり、 2040（令和22）年推計人口48.9万人、2060（令和42）年推計人口43.4万人</p>
<p><2020改訂ビジョン>（2020年（令和2）年3月改訂予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆社会減目標：転出超過を今後10年で（2029年までに）均衡。 上記に加えて、2029年まで毎年、若年層（20～39歳）転入者数を500人上乗せ 〔国は東京圏と地方の転出入均衡について2020年を目標としていたが、2024年（5年後）に先送りしたことを踏まえ、県目標達成年度も2029年（5年後）に見直し。〕 ◆自然減目標：2035年までに合計特殊出生率を希望出生率1.95まで引き上げる。 国と同時期の2040年までに人口置換水準2.07まで引き上げる。 <p>⇒消滅可能性都市ゼロとなり、 2040（令和22）年推計人口48.8万人（▲1千人）2060（令和42）年推計人口43.2万人（▲2千人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 2080年代には約40万人で人口が安定する（人口減少が下げ止まり定常状態へ） ◎ 早期に人口構造が若返り始める（高齢化率のピークは2040年代半ばに35%となり、2040年代半ば以降は低下）

※消滅可能性都市…2014（平成26）年5月に民間研究機関「日本創成会議」が公表した「ストップ少子化・地方元気戦略」内に示された考え方で、若年女性（20～39歳）が2040（令和22）年までに2010（平成22）年比で50%以上減少する市町村が該当する。

2 「2020改訂ビジョン」の将来人口推計



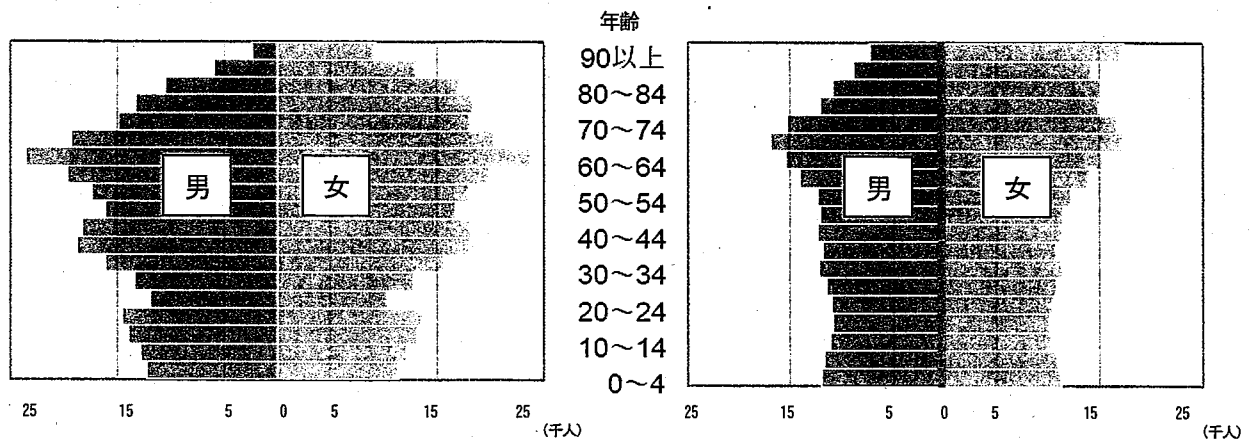
※1…国推計は2060年の推計人口を公表していないため、国推計準拠。

※2…「2015人口ビジョン」は2060年の現状推計を実施していないため、参考数値。

【人口構成の変化 (2018年と2040年総人口の比較)】

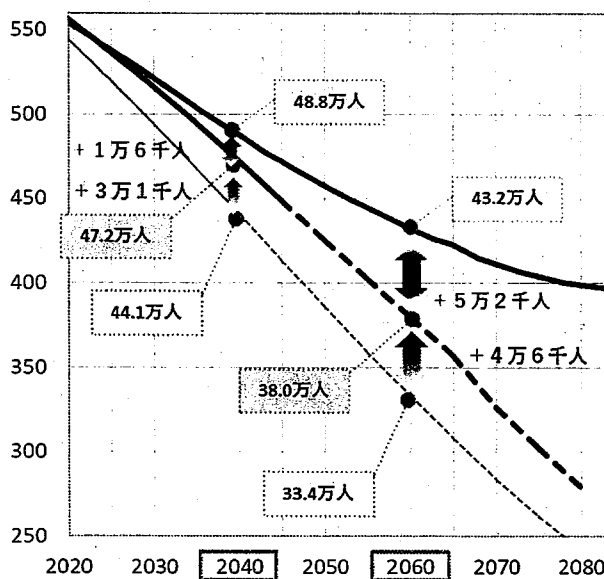
2018 (平成 30) 年 (確定人口)

2040 (令和 22) 年 (将来展望推計人口)

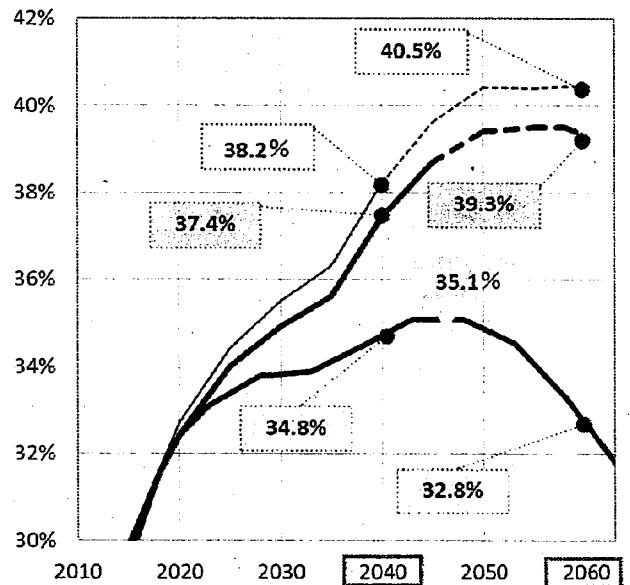


【総人口の推移】

(単位: 千人)



【高齢化率の推移】



	社会動態の推計条件	自然動態 (出生) の推計条件
<p>— 前回の国推計 (点線部分: 国推計準拠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2005~2010年の社会移動 (県外への転出入) が今後10年かけて半減 	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率 2010年1.57が2025年には1.48となり、その後一定
<p>— 直近の国推計 (点線部分: 国推計準拠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2010~2015年の社会移動 (県外への転出入) が今後も同じ規模で続く 	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率 2025年までは1.62、その後微増し2035年以降はほぼ1.64を維持
<p>— 将来展望推計</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後10年で (2029年までに) 転入転出者数が均衡 2029年まで若年層 (20~39歳) 転入者数を500人上乗せる 	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率 2035年に希望出生率1.95まで上昇し、その後2040年に2.07まで上昇

関係人口の拡大に向けた取組状況について

令和2年2月26日
ふるさと人口政策課

産学官金労言の代表機関が参加する「来んさいな 住んでみないや とっとり」県民会議主催で、関西圏在住の若者に、今のととりの魅力を伝え、とっとりで活躍する若者等との交流を通じて、とっとりつつながるきっかけをつくる「若者交流会」を開催し、潜在的関係人口の掘り起こしを行いました。

また、地域活動団体（者）や市町村担当者等を対象に、関係人口受け入れ先進事例等を紹介する「関係人口シンポジウム」を開催し、関係人口を受け入れて地域の活性化に取り組む地域等の拡大を図りました。

※関係人口とは、移り住まなくても、地域に愛着を持って関わり応援する人のことを言う。

1 「若者交流会 in OSAKA ～つながり とっとり～」

(1) 日時 令和2年2月1日（土）午後6時から8時30分まで

(2) 会場 T-GREEN 'S（大阪府大阪市北区天神橋3丁目4-14 天満ガーデン1階）

(3) 参加者 （都市圏側）鳥取や地方に関心がある人、鳥取の人脈を作りたい人、鳥取ファン、I J Uターン希望者、鳥取出身者・学生等で40歳以下の若者 40人

（鳥取側）「来んさいな 住んでみないや とっとり」県民会議参加機関若手社員等 26人

※前回実績（R1.12.7（土）大阪開催）…都市圏側30人、鳥取側18人

(4) 内容 ①ゲストによる鳥取の魅力紹介

- ・野人プロジェクトで鳥取の魅力PR ガイナーレ鳥取 岡野 雅行氏
- ・地域ウェブマガジン「とっとりずむ」編集長 酒本 勇太氏
- ・星取県をテーマに観光企画を展開 阪急電鉄 佐伯 圭介氏

②鳥取の食を囲んで交流会

(5) 参加者の声

- ・鳥取への熱意を持つ人達とつながることができた。一緒に関西から鳥取を盛り上げていきたい。(30代・男性)
- ・交流会を通じて、改めて鳥取の食や人の魅力を感じた。大学卒業後はぜひUターンしたい。(20代・女性)



2 関係人口シンポジウム「日本一おかしな公務員と関係人口を考える」

(1) 日時 令和2年2月8日（土）午後1時30分から4時30分まで

(2) 会場 とりぎん文化会館第1会議室（鳥取市尚徳町101-5）

(3) 参加者 77人

(4) 内容 ①基調講演「ナンパで学んだ地域をおもしろがる力-塩尻市を事例に-」

講師：山田 崇氏 長野県塩尻市役所地方創生推進課地方創生推進係長

②トークディスカッション

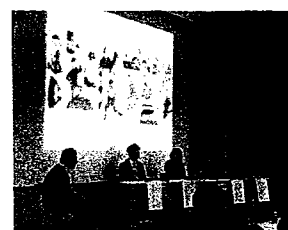
ゲスト：山田 崇氏（基調講演・講師）

齋藤 浩文氏 （株）鳥取銀行ふるさと振興本部副調査役、
（一社）まるにわ代表理事

出口 真理氏 日南町役場企画課自治振興室長

松浦 生 氏 もちがせ週末住人、大山町地域おこし研究員

進行：中川 玄洋氏 NPO 法人学生人材バンク代表理事



(5) 参加者アンケート結果

今回シンポジウムに参加したことで、外部を巻き込みながら活動したいと思ったという回答が約半数あった。

（具体的な意見）

- ・以前から興味を持っていたアイデアを具現化したい。
- ・外部の人を巻き込んで活動する計画を進めており、今回この活動の後押しをしてもらえた。
- ・よそ者の発想が新しい風を吹き込んでくれる。外部の人を巻き込んで地域を進化させたい。



ふるさと鳥取アプリ「とりふる」の運用開始について

令和2年2月26日
ふるさと人口政策課

学生等に対し鳥取とのつながりを持ち続けてもらうため、暮らしに役立つ情報や旬な話題、就活情報等を配信するスマートフォンアプリ「ふるさと鳥取アプリ『とりふる』」を2月1日に運用開始しました。今後の登録促進策として、県内全高校の卒業生約5,000人に対し、学校を通じてアプリの登録依頼を行います。また、県内大学においても、入学説明会等を通じてアプリの登録依頼を行います。

1 登録状況

- 県内外の移住・就職関連イベントや都市部での若者交流会、関係人口シンポジウム会場等でPRを行い、令和2年2月19日時点での登録者数は約450名である。
- アプリを登録した大学生からは「このような便利なアプリがあるとは知らなかった。ぜひ知り合いにも広げていきたい」との声をいただいている。
- 広報課媒体も活用し、新聞広告、駅前広告塔、とりネットバナー広告並びに駅構内でのチラシ配架等で随時県内向けのPRを行う予定である。
- アプリはQRコード又はアプリストアで「とりふる」と検索することでダウンロードできる。

2 運用開始時のアプリ掲載内容

- お知らせ：県や市町村等のお知らせ、新着情報
- お得な情報：未来人材奨学金支援制度、エアサポート事業、移住応援メンバーズカード等
- イベント：ポイントが貯まるイベント情報
- はたらく：企業・求人情報、インターンシップ情報等
- たのしむ：グルメ・観光情報等
- くらす：鳥取暮らし魅力動画、子育て支援情報等
- つながる：都市圏での若者交流会情報、SNS等

3 登録促進策

(1) 対象者に応じた登録促進

- 高校生：ふるさと鳥取県定住機構コーディネーターによる学校訪問、学校を通じた卒業時までの登録促進
- 大学生：ふるさと鳥取県定住機構コーディネーターによる大学訪問、入学説明会、就活関係フェア、県内外大学での就活交流会、帰省時期に併せたメディア広報、成人式等での登録促進
- 既卒者：県外の移住・交流・就職イベント等での登録促進
- 保護者：保護者懇談、PTA総会等での登録促進

(2) 特典ポイントの付与

- アプリ利用に応じて電子マネー等に交換できる特典ポイントを付与（ポイント交換は6月頃開始予定）

<ポイント取得方法>

- ・アプリ登録時（学生のみ）：500ポイント（500円相当）
- ・イベント等参加時：300ポイント（300円相当）

<ポイント対象イベントの例（直近のもの）>

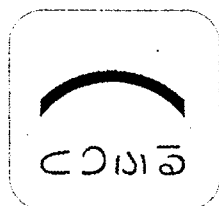
- ・2月26日（水）・28日（金）就活スタートダッシュバスツアー
- ・3月12日（木）・13日（金）とっとり企業ガイダンス
- ・3月14日（土）鳥取来楽暮カフェ（大阪）
- ・3月15日（日）とっとり移住休日相談会（東京）ほか

<アプリ画面>



<アプリアイコン>

「架け橋」をイメージ



<QRコード>

ダウンロード用



SANKO夢みなとタワー物販施設運営事業者候補者の選定結果について

令和2年2月26日
観光戦略課

1月27日にSANKO夢みなとタワー物販施設運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を開催し、SANKO夢みなとタワー1階西側（旧みなとまち商店街）区画で物販施設を運営する事業者の候補者について、審査・選定した結果は以下のとおりです。

候補者は、今後、県に行政財産使用許可申請を行い、県が使用許可手続きを実施した後に営業開始（4月下旬頃）となります。

1 物販施設運営事業者候補者に選定された者

株式会社 永山（エイサン）
代表取締役 張 永軾（チャン ヨンシク）

2 応募書類記載のタワー物販施設での業務概要

- ・営業時間：9時から18時まで（年中無休）
- ・県からの受託業務として、サイクリスト用更衣室・整備スペースの運営
- ・自主事業として、電動アシスト自転車等のレンタサイクル業務、外貨両替業務を提案
（レンタサイクル業務は、自社製品を活用し、自転車整備士も配置して実施予定）
- ・自主イベントとして、SANKO夢みなとタワーや境夢みなとターミナルと連携したイベント、サイクリングイベントの実施を予定

3 審査結果

SANKO夢みなとタワー1階西側（旧みなとまち商店街）区画で物販施設を運営する事業者の候補者の選定に当たっては、1団体（（株）永山）から応募があり、選定委員会において募集公告に基づき総合的に審査した結果、同法人が適当であるとして選定した。

4 選定委員会

(1) 審査委員

氏名	所属等
岡空 晴夫	千代むすび酒造株式会社 代表取締役
足立 明彦	境港市産業部 参事
関 通子	境港管理組合 参事
井熊 浩子	とっとり国際ビジネスセンター 副センター長
岩下 久展	鳥取県交流人口拡大本部観光交流局 副局長

(2) 開催日時

令和2年1月27日（月） 午後2時から3時40分まで

5 参考

(1) 株式会社永山の会社概要

設立	1995年6月
本社住所	東京都台東区浅草橋4-2-2 ユニゾ浅草橋四丁目ビル3階
従業員	352名
主な事業内容	免税店事業（21店舗）、家電製品の卸売・小売業、インターネット販売、家電製品製造販売、電動アシスト自転車製造・販売、バス事業等
本県との関わり	<u>2009年7月に鳥取境港店を出店、2010年には米子空港にも出店、2019年にはチャーター便運航期間中に鳥取空港にも出店した。</u>

(2) 整備スケジュール

～令和2年3月上旬頃 県による旧みなとまち商店街構築物撤去工事

～令和2年4月上旬頃 株式会社永山による内装工事及び什器搬入

営業開始日は、株式会社永山と調整中（4月下旬までにはオープンの予定）

国際定期便の欠航について

令和2年2月26日
国際観光誘客課

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、米子香港国際定期便及び米子上海国際定期便が一部欠航となっておりますので報告します。

1 米子香港国際定期便の欠航期間

令和2年2月18日（火）～3月28日（土）

※令和2年2月13日の航空会社公表情報が現時点の最新情報となります。

【参考】米子香港国際定期便の概要

(1) 運航概要

- ・運航日程：火、木、土の週3便（令和2年3月28日までの運航計画）
- ・運航会社：香港航空（本社：香港）
- ・使用機材：A320（174人乗り）

(2) 令和2年1月利用実績（香港航空大阪支店提供）

注：（ ）内は前年同月実績

提供座席数	総搭乗者数	外国人搭乗者数	日本人搭乗者数	搭乗率
3,480席	1,653人	1,537人	116人	47.5%
(4,872席)	(2,502人)	(1,978人)	(524人)	(51.4%)

<特記事項>

- ・機材繰りにより、1月16日から2月4日までの毎週火曜日の便、2月13日から3月26日までの毎週木曜日の便が欠航となっていた。
- ・令和2年1月は平成28年9月の定期便就航以来最も低い搭乗率となり、日本人搭乗者数も就航以来最低となった。

2 米子上海国際定期便の欠航期間

令和2年2月11日（火）～4月21日（火）

※令和2年2月13日の航空会社公表情報が現時点の最新情報となります。

【参考】米子上海国際定期便の概要

(1) 運航概要

- ・運航日程：火、土の週2便（令和2年3月28日までの運航計画）
- ・運航会社：上海吉祥航空（本社：上海市）
- ・使用機材：A320（158人乗り（提供座席数：156席））

(2) 令和2年1月利用実績（上海吉祥航空日本支店提供）

提供座席数	総搭乗者数	外国人搭乗者数	日本人搭乗者数	搭乗率
1,872席	1,232人	926人	306人	65.8%

<特記事項>

- ・令和2年1月11日に山陰地域初の中国大陸への国際定期便として新規就航した。
- ・新型コロナウイルスによる肺炎拡大の影響により、1月27日から中国の団体ツアーが禁止となり、利用客が大幅に減少していた。

多文化共生の取組について

令和2年2月26日
交流推進課

多文化共生の推進のため、多文化共生フォーラムを開催しましたので、その概要を報告するとともに、県内外国人住民数、相談窓口の状況などについて、以下のとおり報告します。

1 多文化共生フォーラム in 米子

(1) 日時 令和2年2月16日(日) 午後1時30分から4時30分まで

(2) 場所 米子市文化ホール(参加者 約250人)

(3) 内容 【基調講演】女優 サヘル・ローズ (Sahel Rosa) 氏
「出会いこそ生きる力」～夢をつなぐ 心をつなぐ～

【パネルディスカッション】

ファシリテーター：田村太郎氏（(一財)ダイバーシティ研究所代表理事）

パネリスト：県内在住外国人2名、日本語指導者1名

テーマ：「外国人とともに暮らす～今とこれから～」

【まとめ】 ファシリテーター：田村太郎氏

「グローバル社会における地域のあり方と多文化共生」

(4) 概要 ・人との出会いに恵まれて支えられた。ぜひ勇気をもって外国人に声を掛けて欲しい。(サヘル・ローズ氏)

・学校や社会の中で、日本人が当たり前だと思っていることが、違う文化を持つ外国人にとっては理解しづらいことが多い。「なぜ、ダメなのか。」納得できる説明がないと伝わらない。翻訳も言葉を補足するなど丁寧な配慮が必要である。(田村太郎氏)

・国際交流財団が実施する無料の日本語教室の存在が知られていない。効果的な周知が必要。移動手段がない人でも学べる方法や環境づくりを検討してはどうか。(県内在住外国人、田村太郎氏)

・予算を増やしても急に人材は増えない。通訳者や日本語支援者など人材育成・人材確保が必要である。(田村太郎氏)

・アジアの中で日本はトップではなく、外国人にとって働く場所としての日本の魅力は思うほど高くない。来日目的は労働から観光にシフトしている。

多文化共生は、外国人のためではなく、今後の日本のためにすべき。(田村太郎氏)

(5) 参加者の声

・人と人という最も基本的な関係を大切にすることで、多文化共生を実現できることが実体験から伝わった。

・多文化共生という言葉は初めて聞いて、新しい視点だなと感心した。交流が進んでくるとこうなるのかと改めて思った。

・パネリストのエピソードを聞いて、出会うことや関わることで学びの大切さを知ることができた。

2 外国人住民数(令和元年12月末現在)

鳥取県内の外国人住民総数は4,979人で、前年同期比374人、8.1%の増加(平成26年以降6年連続の増加)となった。(各市町村に照会し集計したもの)

(1) 国籍別

①ベトナム 1,387人(外国人住民総数の27.9%)

②韓国・朝鮮 986人(同19.8%)

③中国 898人(同18.0%)

(2) 在留資格別

- ①技能実習 1,786人(前年同期比211人、13.4%増(外国人住民総数の35.9%))
- ②永住者 1,018人(前年同期比10人、1.0%増(同20.4%))
- ③特別永住者 821人(前年同期比△42人、4.9%減(同16.5%))

3 相談窓口の状況、多文化共生ネットワーク地域部会

(1) 相談窓口の状況

設置場所：鳥取県国際交流財団本所、倉吉事務所、米子事務所

相談件数(令和元年4月～令和2年1月)：155件[内訳：本所111件、倉吉32件、米子12件]

国籍：日本65件、中国42件、フィリピン9件など

分野：雇用関係41件、入管手続33件、社会保険及び医療9件など

内容：家族を呼び寄せるための相談、就職に係る相談、病院・福祉制度等についての相談など

(2) 多文化共生ネットワーク地域部会の開催予定

日時：令和2年2月27日(木) 午後1時30分から3時30分まで

場所：鳥取県中部総合事務所 会議室(倉吉市東巖城町2)

出席者：県内市町村国際交流・多文化共生担当課、広島出入国在留管理局境港出張所、鳥取労働局、公益財団法人鳥取県国際交流財団、県関係課

研修：広島出入国在留管理局による出入国管理制度等について

議題：鳥取県国際交流財団外国人相談窓口の運営状況報告

鳥取県多文化共生サポーター制度について

各市町村の多文化共生に係る意見交換

台湾ランタンフェスティバル in 台中への参加結果について

令和2年2月26日

交流推進課

平成30年11月に友好交流協定を締結した台湾台中市からの要請で、台湾での本県の認知度向上、台湾人観光客の誘客及び台中市との一層の交流促進を図るため、「台湾ランタンフェスティバル in 台中」へ出展を行うとともに、台中市政府等の訪問を行いました。

1 ランタンフェスティバル出展

(1) 県ブース出展概要

出展期間：令和2年2月8日（土）～23日（日）

出展会場：台中フローラ世界博覧会の后里会場内「国際友好ランタンエリア」（台中市内）

県ブース：・「まんが王国とっとり」をPRするバックパネル

- ・本県を代表する漫画家（水木しげる先生、谷口ジロー先生、青山剛昌先生）のキャラクターと県内観光地を用いた直方体ランタン

(2) 点灯式の開催

日時：令和2年2月9日（日）午後6時15分から45分まで

場所：ランタンフェスティバル会場内鳥取県ブース前（台中市内）

出席者：[鳥取県] 鳥取県日台親善協会 藤縄喜和 会長（県議会議長）、観光交流局 門脇誠司 局長
[台中市] 令狐榮達（リンフー・ロンダー）副市長、謝明達（シエ・ミンダー）国際事務委員
ほか

[観覧者] 約300名

(3) 芸能披露

構成員：しゃんしゃん傘踊りチーム「我龍天晴（がりょうてんせい）」6名

すずっ子踊りチーム「おどり屋笑颯（おどりやわったい）」4名

芸能披露：・2月9日（日）鳥取県ブース点灯式、ランタンフェスティバル会場内「采風ステージ」

・2月10日（月）ランタンフェスティバル会場内「メインステージ」

(4) 結果

○令狐副市長から、本県についての紹介と両県市の交流の歴史について挨拶された。

○藤縄会長から、本県が「まんが王国とっとり」であることを紹介しながら、鳥取和牛などの豊かな食と、豊富な温泉地などの観光地をPRし、来県の呼びかけを行った。

○点灯式後にしゃんしゃん傘踊りチーム「我龍天晴（がりょうてんせい）」とすずっ子踊りチーム「おどり屋笑颯（おどりやわったい）」によるコラボチームが伝統芸能を披露し、本県の魅力をPRした。

○終了後の記念品配布では、来場者による長蛇の列ができ本県に対する関心の高さが伺え、台中市における鳥取県の知名度の向上を図ることができた。

2 台中市、台南市等への訪問

(1) 訪問概要

期間：令和2年2月9日（日）～12日（水）

出張者：藤縄喜和 鳥取県日台親善協会会長（県議会議長）、門脇 鳥取県観光交流局長ほか

(2) 訪問結果

- 台中市を訪問し、令狐榮達（リンフー・ロンダー）副市長、何敏誠（フー・ミンチョン）市議会議員等と面談を行い、自転車・物産・観光等での本県との今後の交流を深化させていくことで合意した。
- 台南市を訪問し、黄偉哲（ファン・ウェイヂェア）市長、王時思（ワン・シーサー）副市長等と面談を行い、昨年10月の本県で開催された自転車イベントの参加のお礼を伝えるとともに、今後の交流を進めていくことで合意した。
- 鳳凰旅行社及びエバー航空等を訪問し、本県と台湾とのチャーター便運航について要請したほか、台湾日本関係協会（台湾政府外交部機関）と今後の日本と台湾との交流発展への協力を要請した。



鳥取県ブース点灯式



点灯式後の芸能披露



ランタン会場

関西圏における情報発信等について

令和2年2月26日
関西本部

関西圏における、交流人口の拡大、観光誘客及び販路開拓等に係る情報発信等の取組について、以下のとおり報告します。

1 交流人口拡大に向けた取組

(1) フリーマガジンとタイアップした「発酵食の力で楽しく腸活×温活セミナー」を開催

- ①実施日：令和2年2月21日（金）
- ②場 所：グランフロント大阪北館5階HDC大阪C terrace（大阪市北区）
- ③講 師：「たべごと屋日と月と」山根 明子（akiko）氏
※土地に根ざした食や人の魅力の掘り起こしをモットーに鳥取を拠点に活動する料理家
- ④参加者：32名
- ⑤主 催：関西本部
- ⑥概 要：鳥取県の銘酒「日置桜」の熟成純米酒粕を使った旬の野菜のポタージュづくり、酒粕ハンドバック体験を通じ、参加者に鳥取県の食などの魅力を伝えた。
関西圏で発行しているフリーマガジン「Pretty」とタイアップして参加者募集やイベント当日の様子、参加者の声を情報発信することで参加者以外の読者にも広く鳥取県の魅力を発信する。
*フリーマガジン「Pretty」は、関西・大阪を中心に、働く女性に支持されている（月10万部発行）。

2 県産品の主なPRの状況

(1) 「TOTTORI MEAT FAIR（鳥取肉フェア）」を開催

- ①期 間：令和2年2月1日（土）から29日（土）まで ろふう
- ②場 所：メゾン・ド・タカ芦屋（芦屋市）、プレスキル（大阪市中央区）、懐石鷺風（姫路市）
- ③主 催：関西本部
- ④概 要：関西で県産食材を常時取り扱っている高級料理店3店舗において、鳥取県産のお肉をメイン食材として使用したフェアを開催した。

(2) 日本生命本店で「食のみやこ鳥取県フェア」を開催

- ①実施日：令和2年2月14日（金）
- ②場 所：日本生命本店（大阪市中央区）
- ③主 催：関西本部
- ④協 力：（一社）鳥取県物産協会、（株）地域商社とっとり、山陰三ツ星マーケット、鳥取商工会議所青年部
- ⑤概 要：鳥取県オリジナル米「星空舞」や、「星取カレー」（星取県をPRするため、鳥取商工会議所青年部が製作）、農産加工品、土産菓子などの販売PRに加え、社員食堂での県産食材を使用したメニューの提供、県の観光PRを行った。



食のみやこ鳥取県フェアの様子



社員食堂で提供されたカニあんかけ丼

(3) 鳥取マルシェの開催

- ①実施日：令和2年2月15日（土）、16日（日）
- ②場 所：松坂屋高槻店（高槻市）
- ③主 催：松坂屋高槻店、関西本部
- ④出展者：（一社）鳥取県物産協会
- ⑤概 要：ふろしきまんじゅう、とうふちくわ、土産菓子などの販売に加え、県の観光PRを行った（3月7日（土）、8日（日）は、（有）田中農場、さわだ農産（合）も出展予定）。

(4) 令和元年度展示商談会の開催

- ①実施日：令和2年2月25日（火）
- ②場 所：「ハグミュージアム」キッチンスタジオ（大阪市西区）
- ③主 催：関西本部、鳥取銀行、山陰合同銀行、鳥取県商工会連合会、鳥取商工会議所、米子商工会議所、倉吉商工会議所、境港商工会議所、鳥取県信用保証協会、鳥取県産業振興機構
- ④出展者：県内事業者22社（うち初参加：7社、米生産者、農産・畜肉・水産加工事業者など）

3 媒体を活用した情報発信の状況

媒体名	時期	PR内容
春ぴあ関西版	令和2年2月13日	春夏に向けての鳥取県への誘客を目的とし「鳥取の大自然を巡る旅」の特集を掲載した。（鳥取砂丘等の観光地、星の見える宿、アクティビティ、食等） 販売予定数：4万部 ※鳥取県特集頁はWeb上でも公開
C L a s i s m春号	令和2年2月29日	春に向けての鳥取県への誘客を目的とし、鳥取県の観光情報等（松島遊覧、鳥取西道路開通1周年スタンプラリー、とっとり花回廊、鳥取和牛大山不二家心斎橋本店）を掲載する。 発行部数：4万部
0-share（インバウンド（主に台湾人）向け情報発信サイト）	令和2年3月中旬予定	主に在関西及び台湾本国からのインバウンド旅行者の誘客を目的とし、鳥取県の観光情報（鳥取砂丘、三朝温泉等）を発信する。（Web上で公開）

「とっとり経済交流セミナーin 関西」の開催について

令和2年2月26日
関西本部

関西から本県に進出している企業と本県の経済交流の拡大を推進することを目的として、関西で活躍する本県ゆかりの経済人等と、鳥取県内関係者が一堂に会する「とっとり経済交流セミナーin 関西」を開催したほか、関西経済連合会との共催による産学連携セミナーの開催、企業展示会への出展等に取り組みました。

- 1 期 日 令和2年2月5日(水)
- 2 場 所 帝国ホテル大阪(大阪市北区天満橋1-8-50)
- 3 出席者 140名(スタッフ職員を除く)
[関西からの進出企業、関西経済団体、関西旅行・交通・報道事業者、就職支援等協定を締結する大学、県ゆかりの経済人、その他関西の企業、県内産業支援機関・大学、県内企業、県内市町村長、県議会議員 他]

4 概要

(1) 第1部 セミナー

- ・講演 京都大学ウイルス・再生医科学研究所/iPS細胞研究所 教授 戸口田淳也 氏

「iPS細胞の医療応用：現況と展望」

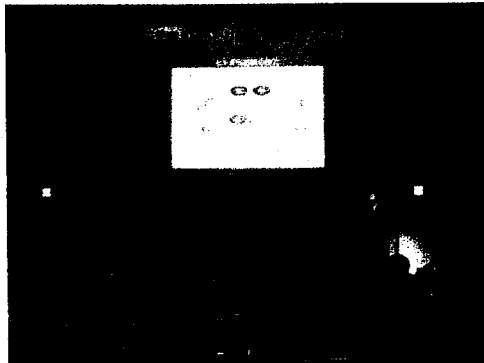
- ・鳥取県内関係機関の取組紹介(産業技術センター、産業振興機構、鳥取大学、鳥取環境大学 他)

(2) 第2部 交流会

参加企業相互の交流を一層図るとともに、県産食材や特産品を用いたメニューを提供し、県産食材をPRした。

(3) 展示・情報発信ブース

出席企業情報、鳥取県の観光情報・移住促進・ふるさと納税等に係る情報の発信・PR



(セミナーでの講演)



(交流会)

5 その他の取組

(1) 「第54回NIKKOフェア」への出展

- ア 期 日 令和2年2月6日(木)・7日(金)
- イ 場 所 尼崎市中小企業センター(尼崎市) 他
- ウ 出展内容 [展示] 鳥取県の観光PR

[即売] 鳥取市ふるさと物産館、山陰三ツ星マーケット、(株)シャルビー

(2) 「とっとり発 廃プラ環境問題と活用セミナー」及び現地視察の開催

- ア 期 日 令和2年2月17日(月)
- イ 場 所 関西経済連合会(大阪市北区中之島6丁目2-27)
- ウ 概 要 公益社団法人関西経済連合会との共催により、廃プラスチックを始めとした環境問題や循環型社会の形成に向けて実践的に学ぶフィールドワークに取り組む公立鳥取環境大学の取組や廃プラスチックを取り巻く諸問題を解説した。

講師：公立鳥取環境大学 環境学部 講師 工学博士 門木秀幸 氏 他

- エ 現地視察 令和2年2月27日(木)、プラスチックを代替材料としてビジネス展開する県内企業を関西圏の企業が視察予定である。